



令和最初の

成人式



新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。今年、成人を迎えたのは、平成11年4月2日～平成12年4月1日に生まれた人で、493人が新成人となりました。市では、1月12日に市文化会館で成人式を開催。笑顔で再会した新成人たちは、記念すべきこの日をみんなで祝い、そして大人への新たな一歩を踏み出しました。

❁ 新成人のことば

新成人を代表して発表された「新成人のことば」を紹介します。



井上倫瑠さん
(小川町)

私は中学、高校とソフトボール部に所属していました。厳しい練習を仲間とともに乗り越えていく達成感や、結果が出たときに一緒になって喜びを分かち合えた経験は今でも忘れられません。

スポーツを通じて大きく成長することができた私は、次第にトレーニングにはこういった効果があって、けがをしたときに体ではどのようなことが起こっているのかを知りたいと思うようになりました。そんなとき、人の基本的な運動機能や生活動作のリハビリテーションに関わる理学療法士・作業療法士という職業があることを知りました。

私は現在、作業療法士になるために愛知県の短期大学に通っています。骨や筋肉のことから、体の病気、心の病気など幅広く勉強しています。勉強は想像以上に大変で、覚え

ることも多く、本当に作業療法士になれるのか不安になることもあります。しかし、ボランティアとしてサポートしているパラスポーツ選手や、実習先で関わりのある患者さんが、障がいを抱えながらもスポーツやリハビリに一生懸命に取り組んでいる姿を見ると「自分も作業療法士として関わりたい、そのためにもっと頑張ろう」と前を向くことができます。

今後は、来年に控えた国家試験に向けて、より一層勉強に励んでいきます。将来は、作業療法士として患者さんの日常生活向上につながるサポートができるようになりたいと考えています。道は異なりますが、同じように将来に向けて歩みを進めている同期の姿を前にして、覚悟を新たにしているところです。

最後になりますが、ここまで育ててくれた両親、支えてくれた友人がいたからこそ私はここまで成長することができました。これからも感謝の気持ちを忘れず、日々精進していくことを誓い、新成人の言葉といたします。

❁ 新成人から親へのメッセージ

成人式実行委員会の皆さんに聞いてみました。





浅野玲奈さん
(亀田町)

私には尊敬している恩師がいます。中学生のときの陸上競技部顧問で、“楽しくしんどく”という言葉大切にしている先生です。

私は小学3年生のときに陸上競技を始め、現在でも競技を続けています。うまくいくことばかりでは決してなく、けがをして試合に出られなかったり、出ても良い結果が出せなかったりと苦しい時期が続き、もうやめてしまおうと思うことが何度もありました。そんなとき、思っていることをうまく言葉にできなかった私に気づき、親身にアドバイスをしてくれたのがその先生でした。選手一人ひとりに合った指導に留まらず、私が落ち込んでいるときには、励ましや勇気づけの言葉をかけてくれました。高校卒業後の進路についても相談に乗ってもらい、先生と立てた目標を達成したい

という思いから陸上競技の続行を決めて、体育学科のある大学に進学しました。

大学では、体のしくみやスポーツについて学びつつ、けがをしない体づくりに努めるようになり、心理的な問題や練習の意味などについても考えるようになりました。陸上競技を始めて今年で12年目、先生の言葉どおり“楽しくしんどく”続けてきたなかで、数えきれないくらいたくさんの人と出会い、多くのことを学びました。

これからも、一つひとつの出会いを大切に、さまざまなことに対して大きな目標を持ち、前進していくなかで、素敵な大人になりたいと思います。

最後に、部活動の仲間や友人、指導してくれたコーチや先生、見守ってくれた地域の方々、そして誰よりも私のことを考えて、これまで支えてきてくれた両親に深く感謝し、新成人の言葉といたします。

令和4年度以降の成人式について

令和4年4月1日から、成年年齢を従来の20歳から18歳に引き下げる改正民法が施行されますが、市では令和4年度以降の成人式について、これまでどおり**20歳**を対象とし、式典の名称を「亀山市二十歳の集い」と改めて実施します。

問合せ先 教育委員会生涯学習課社会教育グループ(☎84-5057)

